

## おしえて！カワセミのこと

「港区自然観察会 早春の生きもの探し」では、自然教育園で長年カワセミの研究に携わっておられる矢野 亮(やの まこと)先生にワセミの魅力や生態についてお話をいただきました。  
先生のお話をまとめました。

### カワセミってどんな生きもの？

Q.カワセミはどんな鳥ですか？

A.「飛ぶ宝石」と言われるほどの美しい鳥です。  
大きさはスズメをやや大きくしたくらい。くちばしが長く、尾っぽが短い形をしています。



Q.何を食べて生きて  
いるのですか？

A.川や池に飛びこんで  
小さい魚などをつか  
まえて食べるハンター  
です。



Q.どんなところに住んで  
いるのですか？

A.川や池という水場があ  
って、小魚などの食べ物が  
とれるところ。卵を産むと  
きには、土がむき出しにな  
ったがけにあなをほって巣  
を作ります。

Q.カワセミの敵はどんな生きものですか？

A.ひなのときに巣穴を狙うヘビが大敵です。巣立ち  
直前のひながヘビに食べられてしまったことがありま  
す。自然の厳しさを感じました。



### カワセミの子育て

Q.カワセミのお母さんは何くらいの卵を産みますか？

A.一度に5こから7こくらいのまんまるな卵を産みます。

Q.子育ては大変ですか？

A.大変ですよ！お父さんとお母さんが協力してひなのお世話をします。  
朝早くから狩りをして、ひなの大きさに合った食べ物をとってきて、一日何回  
も与えなければなりません。自分で飛べる時期になったら飛び方を教え、独り  
立ちまでを見守ります。孵化してから巣立ちまでは約23日かかります。

私は、親がいなくなってしまうひなを救出して独り立ちまで育てたことがあ  
ります。それはもう非常に大変でした。

## カワセミの魅力

**Q.**カワセミの魅力はどんなところですか？

**A.**私とカワセミの出会い、1988年、園内にゴミ捨て場としてほられた大きな穴の壁にカワセミが巣を作っているのを見つけたことでした。

それからずっと、カワセミの繁殖生態を見守り、いろいろなことがわかってきました。その一つが、ひなたちの食餌風景のお行儀の良いこと。巣穴内のひなが位置を交代しながら親鳥から餌をもらい、またうしろに整理する様には驚き感動しました。

その美しさだけでなく、生態の不思議さに魅せられています。

## カワセミを観察したい

**Q.**どこに行けばカワセミに会えますか？

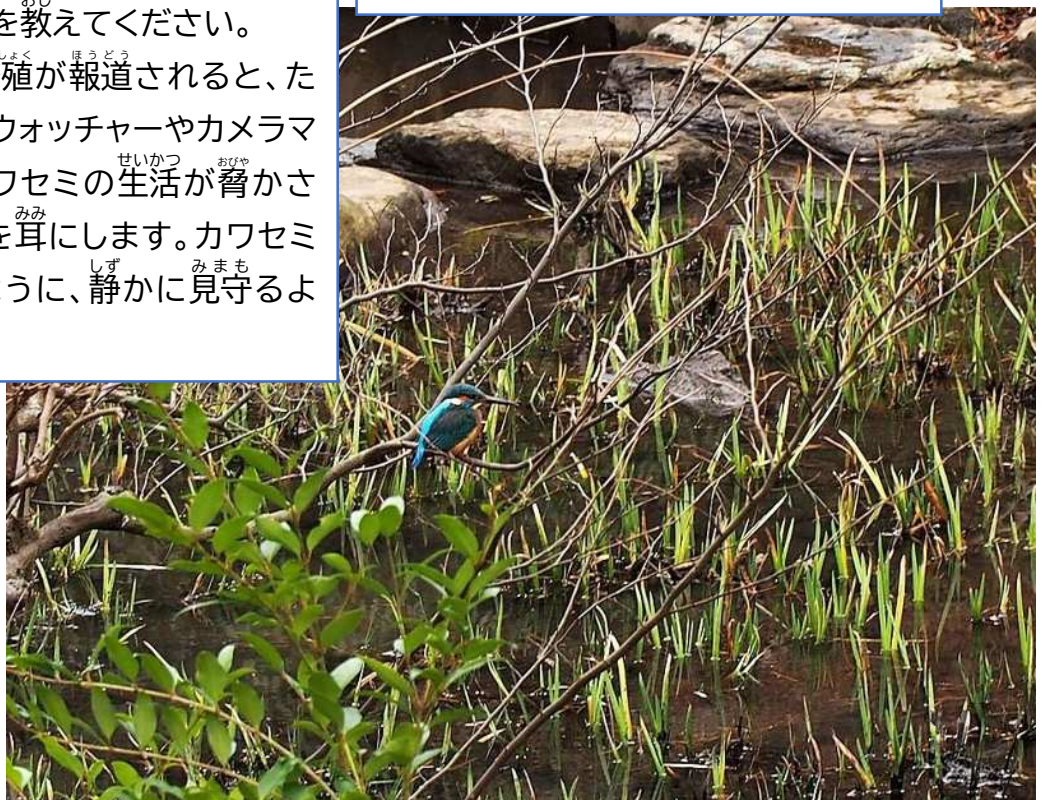
**A.**公園の池や運河など、小さい魚などのエサがある水辺に行けば会えるかもしれません。自然教育園でも、カワセミに会えることがありますよ。

**Q.**カワセミを観察する時のポイントや気を付けることを教えてください。

**A.**カワセミの繁殖が報道されると、たくさんのバードウォッチャーやカメラマンが殺到し、カワセミの生活が脅かされたという話を耳にします。カワセミを驚かさないように、静かに見守るようにしましょう。

**Q.**自然教育園はだれでも見学できますか？

**A.**だれでも見学できます。カワセミ以外にも、多様な生きものが住んでいて、昔の東京の自然の姿を見ることが出来ます。観察会などのイベントも開催しています。(入園料がかかります)



写真：宮崎則行さん

## カワセミと港区の自然



**Q.** カワセミは一時港区からいなくなったけど、戻ってきたと聞きました。なぜ戻ってきてくれたのでしょうか。

**A.** 戦前までの東京は自然が豊かで、カワセミも都心部でふつうに見られた鳥だったようです。ところが、戦後の経済復興とともに、自然、とくに川や池などの水辺環境がなくなり、カワセミの生息地が奥多摩の山奥までと後退してしまいました。

ところが1970年頃に、しだいにカワセミが都心部に戻ってくるようになりました。この原因については①水の汚れに強いモツゴやザリガニといった、カワセミのエサとなる小さな生き物が増えたこと②農薬の使用が規制されたこと③カワセミ自身が環境に合わせられるようになってきたこと④一般の人々に野鳥を大切に守ろうという思いが広がったことなどと考えられています。

**Q.** カワセミから見て港区はどんなところでしょう。

**A.** 東京には、江戸時代の大名の屋敷や下屋敷の跡が、大きな面積の、生きものの豊かな緑地として残されています。これらの緑地が、東京の自然回復の拠点として大きな働きをしていると思われ、カワセミの巣を作る場所、えさを取る場所になっています。私のいる自然教育園もその一つです。また、赤坂御用地でカワセミが繁殖していることを、紀宮清子様の研究で詳しく報告されています。港区は、日本の中でも一番カワセミが研究されている地域であると言えるのです。

**Q.** どんな環境を作ればカワセミが来てくれますか？

**A.** モツゴなどの小さな生きものがある水辺があれば、カワセミがえさを探して来てくれるのが期待できます。えさ場を支える環境を整えることも大切です。ブラックバスやブルーギルといった肉食の外来魚が増えてしまうことによって、在来種のモツゴ、スジエビなどが激減し、小さな魚を食べるカワセミには厳しい環境になってしまいます。また、巣を作れるような崖があれば理想的です。北海道ではコンクリートブロックで作った人工の巣にカワセミが来てくれた例もあります。

矢野先生、貴重なお話をありがとうございました



矢野 亮(やの まこと)先生 略歴

1969年より国立科学博物館附属自然教育園に勤務。現名誉研究員。元関東学院女子短大・大学非常勤講師、元日本鳥類保護連盟評議員。著書には「四季の森林」「カワセミの子育て」「帰ってきたカワセミ」(以上、地人書館)、「自然観察ガイドンス」「街の自然観察」(以上、筑摩書房)、「植物のかんさつ」(講談社)などがある。